

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100402		
法人名	宮崎医療生活協同組合		
事業所名	グループホームにじの樹		
所在地	宮崎市和知川原2丁目25-1		
自己評価作成日	平成23年6月3日	評価結果市町村受理日	平成23年8月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.kouhohoren-miyazaki.or.jp/kaigospip/infomationPublic.do?JCD=4590100402&amp;SCD=320">http://kouhyou.kouhohoren-miyazaki.or.jp/kaigospip/infomationPublic.do?JCD=4590100402&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成23年7月15日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関との連携で、利用者や家族が安心してここで生活している。また、利用者一人ひとりの個性をつかめるよう、職員も常に考え実践している。まだ開設して一年であり、地域との結びつきが未熟ではあるが、地域へ出掛ける支援を積極的に行い、徐々に地域へ浸透している。施設の中でも、個人の持つ力を十分に発揮できるよう支援し、認知症の症状緩和にもつながっている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

宮崎市の中心市街地に近く、近隣には高校、医師会、保健所、商店、住宅等があり、利便性に恵まれた環境の中にホームは立地している。1階が同一法人のクリニック、2階にデイサービスがあり連携して運営されている。まだ開設して1年という歴史の浅いホームであるが、理念に「地域の中で健康で安心した暮らし」を掲げ、管理者を中心に熱い思いでサービス向上に取り組み実践につなげている。また、終末期のあり方について、利用開始時に具体的な方針を示し、関係者全員が共有して前向きに取り組み実績もある。利用者も家族も職員の心のこもったケアに支えられ、明るく安心して暮らしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「寄り添ったケアとはどうあるべきか、住み慣れた地域で安心して暮らしとは」を念頭に、開設時に職員が話し合っって理念を作り上げた。具体化するため、管理者は職員と話しあっている。	開設時に管理者と職員全員で話し合い、「地域の中で健康で安心して暮らし」を理念に掲げ、全員がその理念を共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の商店へ買い物に行ったり、散歩の途中で近所の方々とのふれあいを行ったり、段階的にはあるが少しずつ取り組んでいるところである。	ボランティアの受け入れや散歩時に近隣の人々とあいさつを交わしたり、近くの商店への買物等、徐々にではあるが地域との交流に努めている。また、ホームで認知症予防学習会の開催を検討している。	地域住民の一員として、自治会への加入の検討や地域の人々とのかわりを積極的に進めてほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々とのふれあいの中で、「認知症学習会」「認知症予防学習会」などの取り組みを考えてはいるが、まだ実践できていない。今後は是非取り組んでいきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者と共に取り組んでいる毎日の実践や、毎月必ず行っている行事などの報告を写真などで報告している。今後は、地域との交流の進め方などを話し合っっていきたい。	2か月に1回開催している。会議では防災時の対応や地域との交流等の具体的な意見交換があり、そこでの意見をサービス向上に生かしている。また、パワーポイントで利用者の生活の様子を毎回紹介している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が「認知症ケア地域推進委員」であり、センター方式地域基礎研修への参加などを行い、グループホーム全体の質の向上のため、連携を図っている。	管理者が認知症ケア地域推進委員として市の担当者と交流があり、市が主催する研修等には積極的に参加して、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束排除への取り組み」など学習会を行っているが、玄関の施錠解除は行っていない。居室にはカギはないが、「鍵をかける弊害」について、今後話し合っっていきたい。	ホームが3階にあるため、危険防止のため人手の不足時にはやむなく玄関の施錠をしている。管理者や職員は、身体拘束の弊害を学び理解しており、身体拘束のないケアの実現に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止」の勉強会を通じて、職員全体で理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の予定を年内に計画している。現在まだ実施していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、利用者や家族等の不安がないよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が運営推進会議へ参加できるよう配慮している。これからも意見を運営へ反映させていきたい。	毎月、家族には手紙で利用者の生活の様子を報告している。また、家族の来訪時にはできるだけ声をかけ、意見や要望を引き出す努力をしている。出された意見や要望は運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回職員会議を開き、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、細かいことも日々職員同士で話し合ったり、管理者へ相談できるよう配慮している。	毎月定期的に職員会議を開き、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。会議では活発な意見交換があり、それらの意見を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを設け、職員がやりがいを持って働けるよう環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での年間を通じた学習会の実施や、法人外への研修への参加の機会を設けている。職員の学習への意欲も強く、各資格取得への挑戦も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が同業者への訪問を行ったことはない。今後は、ネットワーク作りも含めて、行っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始にあたって、十分にそれまで利用者、家族等から要望などを聞きとるとともに、関わっていた介護事業者にも意見を聞き、安心を確保する取り組みを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には十分に家族との話し合いを設け、不安がないように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な方には、同敷地内のサービス事業所を訪ねたり、馴染みの利用者との会話ができるように配慮した。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに助け合って暮らしている関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との外出を含め、家族だけの時間を大切にできるよう配慮している。また、外出時などには施設の情報や、現在の状況も細かく伝え、家族が困らないよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人が訪ねてくることはあるが、こちらから馴染みの場所への訪問などを含め、積極的な取り組みは行っていない。	2階のデイサービスから入居の利用者がおり、相互に訪問して交流している。また、家族の協力を得て墓参りをする利用者もいる。大切にしてきたなじみの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わっている場面には、職員は極力手を出さずに見守っている。また、利用者が気づき、自ら動き出すような設定に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから担当のケアマネへ情報を提供したり、今までの経過を伝えるなどしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中などから、暮らし方への意向がないか、職員全体で努めている。困難な場合への対応については、管理者や関係者などで話し合いに努めている。	日々の会話や利用者の行動、表情の中から、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。また、センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント)を活用して意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始までの関係者や家族に情報をもらうなどして、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスなどを通して状況把握に努めているが、頻回には行っていない。定期的に本人の出来る事の発見に努めていきたい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングなど、家族との話し合いがなかなかおこなえず、事業所側の一方的な思いになっている。今後は、家族にも話し合いの場に参加してもらい、ケアの在り方に、様々な意見を反映したい。	日常のかかわりの中で、本人や家族から思いや意向を聴き、職員間で十分話し合い検討して、利用者の視点に立った介護計画を作成している。	本人、家族の要望や変化に応じて臨機応変に対応するために、月に1回程度はモニタリングを行い、3か月ごとに介護計画の見直しをしてほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式を活用し、ケアの気付きを含め日々の記録を行っているが、十分な活用に至っていない。介護計画の見直しにも活かしていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況の変化の際に、法人内の様々な職種を利用し、支援の仕方を職員で話し合いを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者がもっと楽しめるように、地域資源の把握や、地域の方々の力を借りる場面を作るよう努力したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人とご家族の希望により、協力医療機関の往診診療を2回/月受けており、変更事項などについては、申し送りを行い、職員間で周知徹底させている。	ほとんどの利用者が同一法人の病院からの入居で、1階のクリニックを掛かりつけ医としている。月に2回の往診があり、いつでも受診や相談が出来る体制が築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定や、日々の中でとらえた情報は連携をとっているクリニックへ必ず伝え、早期の適切な治療へつなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、退院時を含め、病院関係者との連携に努めている。また、入院中にも情報を得るよう努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、終末期のあり方については入居時に必ず家族へ説明し、同意を得ている。また、実際に「看取り」の時期を迎える時には再度話し合い、家族や本人の意向を取り入れるよう努力している。	重度化した場合のあり方については、利用開始時に利用者や家族に方針を詳しく説明し同意を得ている。関係者全員が方針を共有し、看取りの実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療連携もあり、事故発生や急変への対応は十分に行えている。対応がむずかしい事例が起こりうる時は、その都度職員で話し合い、あわてないよう配慮している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は利用者と職員とともに実施。その時にあわてないよう、訓練を何度も行っている。地域との協力体制はこれからの課題である。	年に2回、消防署の協力を得て避難訓練を行っている。地域住民の協力についても働きかけを行っている。	ホームは3階にあり、非常災害時で特に夜間の場合は、職員だけの対応では限界があるので、地元消防団や地域住民の協力を得て、是非とも夜間を想定した避難訓練を実施してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりのプライバシーを尊重した対応を行っている。また、わかりやすい言葉での話しかけなど、状況に応じて使い分けて対応している。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライドを損ねるような嫌な気持ちにならないように、言葉かけや対応に細心の配慮をしている。また、職員は守秘義務を十分理解し、管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の中で小さなことでも本人が自己決定できるよう、職員も配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どうしても職員のスケジュールが優先してしまう現状がある。暮らしの主人公が誰なのか、職員間で話し合いを続け、今後も追求していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えなどの際には、利用者を選んでもらったり、化粧をしたりなどの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの一部を担ってもらったり、味付けに意見を求めたりし、少しでも参加してもらえるよう努力している。また、職員も同じ食卓に着き、同じものを食べることで食事が楽しくなるように努めている。	利用者の好みに配慮したメニューを工夫している。食事の準備や後片づけを職員と一緒に、同じテーブルを囲んで同じものを会話をしながら楽しく食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みや嗜好調査を入居前に行っている。また、普通の食事が取れなくなった方への食事形態の変更など、職員で話しあい、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の口腔ケアは毎食後、しっかりと行えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の排泄パターンを把握するよう努力し、自立した排泄ができるよう支援している。	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう自立に向けて支援している。また、できるだけおむつを使用せずに過ごせるように工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の間隔をしっかりと把握し、飲食物の工夫や薬剤の助けを借りて、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回から3回、入浴を行っているが、利用者の希望にはなかなか添えていない。入浴については、一人ひとり十分に楽しめるよう配慮して介助を行っている。	入浴は週に2回～3回としているが、希望があればいつでも入浴を楽しめるように支援している。入浴を拒む人には、言葉かけやタイミング良い対応の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の状況に応じて、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	疑問があれば薬剤師に相談したりするなど、確認に努めている。また、新しい薬の開始時などは、副作用をはじめ観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持って生活出来るよう、支援している。毎月、何かしらの行事を入れたり、散歩や外出を行い、気分転換を図り、画一的な毎日にはならないよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外へ行きたい方については、一日のうちに希望があれば何度でも出かけることもある。ボランティアなどの協力を得て、季節に応じた外出も行っている。	近くの公園までの散歩や買物等、できるだけ日常的に戸外に出かけられるように支援している。また、ボランティアの協力を得て、季節に応じ、花見や博物館見学、大淀川学習館見学等に出かけ楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方には、所持してもらっているが、店などで直接の支払いをする場面の設定を徐々に行っているところである。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、手紙のやり取りの支援を行ったり、電話をかける支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に、温度や湿度に気を配り、音や光(特に夕方)にも配慮し、不快にならないよう配慮している。	共用の生活空間は採光、換気、湿温等に配慮し、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。季節に応じて七夕飾りや利用者の手作りの作品が展示され、家庭的な雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった人同士過ごせるよう配慮しているが、時々席順などでのトラブルもあり。まだ工夫の余地がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込んでいただいたり、家族の写真を飾ったり、居心地良く過ごせるよう配慮している。	使い慣れた好みのいすやタンス、家族との写真等、本人が今まで大切にしていた物が持ち込まれ、安心して居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人に応じた福祉用具を利用するなど配慮している。		